



『いのちのために まじめに未来を考える。』

特定営利活動法人 生きものと食べものの未来

今年も収穫の季節がやってまいりました。実りの秋はうれしいのですが、お米不足など気になるニュースは続きそうですね。

生き食べ未来通信は、「特定営利活動法人 生きものと食べものの未来」の会員様にお送りしています。皆様との情報提供・交換の場となればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、「生き食べ未来 通信」3号をお届けいたします。

// // // I N D E X // // //

- ・巻頭言.....
- ・活動紹介..... 8月の活動実績/今後の予定
- ・会員企業様ご紹介..... 西邦化学産業株式会社
- ・コラム：私の提言..... PFASの追記
- ・ウェルビーイング..... 72歳のウェルビーイング
- ・食べものの紀行.....
- ・8月にご入会いただいた方
- ・コーヒーブレイク..... 図書紹介
- ・編集後記.....



巻頭言



ことしも原爆の悲惨さ、戦争の愚かさをあらためて確認し記憶にとどめる暑い2024年8月が終わった。昨年は、広島サミットで原爆の悲惨さを世界に伝えた特別な年であった。にもかかわらず10月イスラエルのパレスチナへの攻撃が始まり、ロシアのウクライナへの侵略は未だやむことがない。広島出身の岸田首相は平和に向けての何の成果も見えぬ中、退任を決めた。『日本人は、敗戦から何を学び、世界に何を発信すべきか。』考えてみるきっかけに《生き食べ未来通信》がなればと願ひ今月号をお届けします。

1945年8月原爆が投下され、ようやくその悲惨さを目の当たりにして、負けても戦争は終わりにするべきとの判断に至った。国家は体制を維持するためにあるのか、国民の生命・財産を守るために存在するのか。当然後者を学んだはずである。敗戦から復興した日本、原爆の惨禍から立ち直った広島、長崎の経験から、廃墟となっても復興できること学んだ。ロシア・ウクライナ、イスラエル・パレスチナに対して即刻停戦を提案するべきである。日本は、ウクライナに同情はしても支援活動はしない。イスラエルとの距離をとる。イスラエルからの攻撃型ドローンの輸入は行わない。ロシアの侵略は1991年ワルシャワ条約機構が解散したのちも北大西洋条約機構(NATO)がロシアの隣国に拡大し続け、ロシアの脅威となっていることが大きな要因の一つである。単純に自由と民主主義を守るためのものではないことは歴史が証明している。

台湾有事が俎上に乗った。国連は、『台湾は、中国領土の一部である。』としている。日本もアメリカも台湾との正式な国交はない。しかしながら自由と民主主義の砦として、台湾防衛に力を注いでいる。国交がある中国を仮想敵国としている、おかしいことだ。

平和は大切である。誰もが恒久の平和を願っている。ロシアのプーチンも中国の習近平も北朝鮮のキムジョンウンも然りと思う。今、多くの日本人は、冷静に考えることをせず、戦争の不安にかられ、軍備を強化する必要性を感じ始めている。アメリカの謀略なのであろう。何もしなければロシア、中国、北朝鮮も軍拡に力を入れることはないのかもしれない。そう思うのは、私が無知だからなのだろうか。

長崎で被爆された会員のお母様の手記をいただきました。その中には原爆の悲惨さ、恐ろしさが綴られていました。『戦争の愚かさ、恐ろしさ、平和の尊さ』を後世に伝え、二度と戦争はしないためにとの強い意志を感じました。私たちのNPO法人は、『平和で豊かな未来に通じる活動』をすることが根底にあります。気が付いた人は、知らないふりをしない。傍観しない。できることから行動を起こす。ロシアの侵略、イスラエルのパレスチナへの攻撃が現実世界で起こっています。私たちは、未来に対して為すべきこと、できることを形にしていきましょう。

理事長 川上龍太郎





活動紹介

8月の活動実績

★8月16日

場所：[福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4階 あすみん](#)

内容：理事3名及び会員代表による《生き食べ未来通信》7月号の評価及び次号以降の発行内容などの確認のために打ち合わせを行いました。また、学生会員獲得のための取り組みを行うことなどを確認しています。

★8月27日

内容：九州大学の脂質に詳しい栄養化学の先生を会員企業に紹介するために訪問しました。

★8月28日

内容：学生会員獲得の相談のため、九州産業大学生命科学部教授を訪問しました。

★8月29日

内容：法人会員である（株）森光商店様及び（株）ママミール様を商品開発などに関する打ち合わせのため訪問しました。

今後の予定

★九州大学食糧化学工学分野在校生及び関東在住卒業生との懇親会

日時：9月12日（水） 開始19時～

場所：東京都品川区品川港南口JOY SOUND

内容：懇親会にて、当NPO法人の紹介及び加入の案内

★第2回生き食べ未来の集い

日時：9月23日（振替休日） 14時30分～

場所：[福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4階 あすみん](#)

テーマ：食料問題にどのように立ち向かうのか。（仮称）

対象者：会員及び当法人に興味がある方々（入会を検討中の方含む）

お申込み：<https://forms.gle/fDl7tnbiDh3KPbpp9>



お申し込みは必須ではありませんが、下記からお申込みいただけましたら幸いです。

当日のご参加含め
お待ちしております。

★九州産業大学 生命科学部学生向け講義

日時：11月15日（金）

場所：九州産業大学 生命科学部学生向け講義

テーマ：NPO法人生きものと食べものの未来が語る「食の倫理と哲学」



会員企業様ご紹介

西邦化学産業株式会社（代表取締役 西富健司氏）



弊社久留米本社では主に繊維加工用の染料・顔料・加工用助剤・工業用洗浄剤・オイル添加剤・潤滑剤・防錆剤等の工業薬品をはじめノベルティ商品製造関係の資材販売を全国展開しています。

東日本橋の東京支社では繊維生地仕入れ、伊奈平の工場ではTシャツやタオル等のプリントを行っています。

また、本社では『酵素マニア事業部』として、微生物や酵素での臭気対策・土や水に伴う環境浄化、微生物利用による一次産業用資材や飼料の開発と販売を行なっています。

特に有機栽培の資材開発に力を入れると共に、これからの地産地消・国内生産の見える化をはじめ、将来の食の安全性を見据えた食物作りに力を注いでいます。

ホームページ <https://seihocmc.co.jp/>

メール <https://seihocmc.co.jp/contact-us/>

TEL 0942-44-7788

FAX 0942-43-2622



会員の方の投稿、おまちしております！
こちらまで、メールでどうぞ！
info@npo-ikitabemirai.org





コラム：私の提言

PFASの追記

先月の《生き食べ未来通信》でPFASに関する記事を書きました。[FBページで公開しております。](#)

原稿を書いた後、大阪府摂津市で高濃度のPFASを排水していたダイキン工業がPFASに関する取り組みをホームページ上に掲載しましたので、これらに関する情報を提供することにします。

ダイキンは、エアコンの製造だけでなく、フッ素化学のグローバルリーディングカンパニーとして世界中で事業を展開している。PFASは進出した各国と連携し規制当局の承認に基づき、PFASを製品製造に使用している。また、今後も世界各地の製造拠点において、各国政府の規制当局と連携して規制を順守しつつ、環境負荷を低減するための取り組みを行う予定である。また、既にダイキンは、欧米では3億ドル以上を投資し排水中からのPFAS回収を進めている。

ダイキン淀川製作所周辺では、2004年京都大学チームの調査で高濃度のPF0Aの排水が、2008年には、PF0Aの大気汚染が判明している。2012年には、世界中で規制が進む中で、製造を止めたとしている。しかしながら、2020年の調査で、環境基準の35倍の濃度でPF0Aが検出され、また、非汚染地域の住民と比べ数十倍の高濃度で地域住民の血液の中からPF0Aが検出されている。2022年ようやく摂津市議会が動き出し、市民運動として「PF0A汚染問題を考える会」が署名を集め活動を開始している。

その間、2018年には既にアメリカアラバマ州で市民団体と和解が成立し、400万ドルの和解金が飲料水から除去する費用に充てられている。

ダイキンは、営利企業であり、自ら賠償・回収などの行動をとらず、自社に不利益な情報を自ら公表することもしない。行政は、企業を自ら告発するような行動をとらない。摂津市は、ダイキンの企業城下町であり利害が複雑に絡んでいる。

そのことを前提にこれからは、海外での事例を参考に、行政への働きかけ、署名運動、その他の住民活動、訴訟及びマスコミで報道をさせること。また、これまでの公害と違って、一つの地域でなく被害の発生が全国に存在するためにSNSでの情報交流ができる現在、全国規模のネットワークを作り、取り組む活動が重要となってくると感じた。

川上龍太郎

参考資料

[令和元年度PFOS及びPF0A全国存在状況把握調査の結果について](#)

[PFASに関する当社の取り組み ダイキン工業株式会社](#)

📌 次ページにアップいたしました。

ダイキンは、フッ素材料の持つユニークな特性を、健康、安全、快適、安心、環境保全などの幅広い業界で安全に活用できるようにするために、PFASの研究開発に多額の投資を行っており、各国の規制要件に準拠した製品を開発しています。

ダイキンは、環境に配慮した持続可能な生産活動の一環として、全ての製造過程の継続的な改善の重要性を認識しており、PFAS製品の安全な製造と使用を確実にするために、革新的な技術開発とその実用化を追求し続けます。

各国政府との連携

ダイキンが製造する、または製品の製造に使用するPFASは、米国環境保護庁（EPA）や米国食品医薬品局（FDA）、欧州化学物質庁（ECHA）、日本経済産業省（METI）などの規制当局によって承認されています。ダイキンは今後も、世界各地の製造拠点において、各国政府の規制当局と連携して規制を遵守しつつ、環境負荷を低減するための取り組みを推進してまいります。

PFAS排出量の最小化

ダイキンは、3億ドル以上を投資し排水中からのPFAS回収を進めています。

既に、米国および欧州のフッ素ポリマー製造工程でのプロセスから排出される重合乳化剤を99%回収する内部目標を達成しました。現在、ダイキンの全ての工場では、排水中におけるPFAS(*1)の回収率を99.9%にするという新たな社内目標に向けて取り組んでいます。この大きな目標を達成すれば、PFAS製造による水域への潜在的な影響を最小限に抑え、世界におけるPFAS製造の新しいベンチマークを設定することが可能となります。

製造工程の改善

ダイキンは、化学製品の安全な製造を確かなものとするために、全ての製造工程を継続的に改善し、新しい技術の検討とその実行にも取り組んでいます。

その一環として、フッ素ポリマーの全ての製造工程を、より持続可能な新技術に移行しています。フッ素ゴムについては2025年までに新技術による製品に切り替えることを目標としており、その他のフッ素ポリマーについても2030年頃までに新技術による製品に切り替えることを目指して技術開発を実行しています。また、2023年以降、新たに建設される製造施設においては、持続可能な技術を採用した製造方法を導入しています。

リサイクルへの取り組み

ダイキンは、循環型経済（サーキュラー・エコノミー）に向けて、自社にて製造するフッ素化学製品の回収、再利用、リサイクル、および破壊を行い、ライフサイクル全体での環境負荷削減に取り組んでいます。

- [リサイクルの取り組み](#)
- [冷媒の回収と再生事業](#)
- [フッ素樹脂の回収と再生事業](#)
- [再生蛍石の活用](#)

備考：PFAS(*1)とは、ペルフルオロアルキルおよびポリフルオロアルキル物質を指し、立法当局や規制当局が認める分析方法で個別に同定・定量される物質を示します。





コラム：私の提言

今だからこそ、お米を食べよう。

朝食をパンからお米にかえよう。私は元々パンが好きである。ほとんど今まで毎日朝はパン食だった。しかしながら、食料自給率の低さ、食料安保そして栄養・健康、農家収入の安定化など諸々を考えるとこれからは「お米を食べよう。」である。

原発処理水で中国・香港が日本産海産物の輸入をストップしただけで大騒ぎとなった。逆に中国が農水産物や肥料などの輸出を止めたらどうなるのか。中国から梨の花粉輸入が病害のためストップした。千葉県を中心とした日本の梨栽培の3割に影響が及んだそうである。肥料、飼料の国内での自給率は甚だ低く、農作物の種子はほとんどF1になり、2018年4月種子法も廃止してしまった。食料自給率（カロリーベース）は38%しかなく、種子を特定企業が独占しようとしている中で、我々は、自分たちの食べものをどのように確保するのか自分ごととして、食生活を見直したい。

お米は、縄文時代晩期から栽培され、日本人が食べてきたものである。長い歴史の中で日本人は稲作のノウハウを蓄え、農薬や肥料がない時代に栽培する技術を身に付け、持続可能で環境保全ができる農業を営んできた。万の神に五穀豊穡を願う農業だったのである。

食物繊維の取り方が減っている。特に米を中心とした穀類からの食物繊維の摂取が減っている。日本人が過去に食べていた一汁三菜食が健康に良いと最近の科学は証明している。栄養面からもお米はたんぱく質を含み、大豆との組み合わせによりアミノ酸のバランスが良くなり、食物繊維も取れ、エネルギー源となる良質な食べものである。日本人は欧米人に比べ腸が長い。これは食物繊維が多い食べものを食べていたことの証である。日本人のからだはお米中心の菜食にむかしから適応してきたのだ。

最近、欧米でビーガンや菜食主義者が増加している。又、セリアック病予防にグルテンフリーなお米が注目されている。（セリアック病：小麦、ライ麦などに含まれるグルテンに対して異常な免疫反応を起こし、自分の小腸粘膜を攻撃、栄養吸収に支障が生じる病気。欧米人に多く見られる疾患であるが、パン食やパスタ食が増えるにつれて今後、日本でも増加する可能性が高い。）ヨーロッパで「おにぎり」が人気を集めている。美味しくて手軽なだけでなく、健康的でグルテンフリーであることが影響しているのであろう。

お米は、微細化技術の進歩とともにパンや麺加工に適した新たな品種が開発されて、以前と比較にならないほど用途が拡大、需要が増えている。農業には目的が異なる農法がある。小麦、大豆、菜種を化学肥料や農薬を大量に使用し単一作物で生産効率を高め高い利潤を上げることを目的とした経済農法と生物多様性を前提に自然との調和の中で生きる糧（かて）を得るために昆虫や土壌を住みかとする生きもの、微生物の力を利用した自然農法である。経済農法は環境を破壊し、自然農法は環境を保全するのである。コロナとウクライナは未来の食の選択をあぶりだした。食料安保の視点から日本は危機的状況である。食糧の輸入がストップしたら手の打ちようがない。お金で買えないことを前提に米だけは潤沢に生産する。備蓄する。余るなら、食糧危機の国や貧困所帯にお米を現物で支援・支給する。ご飯は子供でも炊け、飢えに耐えられるのである。皆さん、今日から積極的にお米を食べましょう。

文責：川上龍太郎

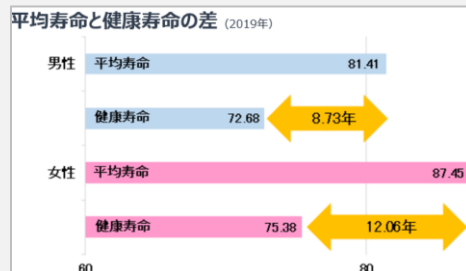


72歳のウェルビーイング：不定期に投稿

ウェルビーイング (Well-being) は、「身体的、精神的、社会的に健康で豊かであること」とされています。高齢者にとっては、健康寿命（幸福寿命）を可能な限り伸ばす事で、健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」です。

この健康寿命（2019年時点）は男性が72.68年、女性が75.38年で、平均寿命と比べると男性は 約9年、女性は約12年の差がありました。

この差は、健康上の問題で日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味します。



厚生労働省「第16回健康日本21（第二次）推進専門医委員会資料（令和3年12月）より

地域のシニア会（老人会＝シニア会）に70歳で加入しました、卓球同好会に入るためです。シニア会会員70名弱、私が最年少です。



副会長及び健康スポーツ部長を命じられ、年4回の軽スポーツ会を開催しています。

同好会が6団体あります、卓球、グランドゴルフ、ウォーキング、カラオケ、民舞、スマホサロン、70代から90代の方がスポーツ、おしゃべりを楽しんでいます。シニア会は、このような機会を提案、提供する場になっています。

上部組織 公益財団法人 全国老人クラブ連合会の方針は以下です。

令和6年度事業実施方針 メインテーマ（全国共通）

「のばそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」

<健康寿命>

健康寿命をのばし、自立した生活、生きがいある生活の実現を目指す。

仲間や地域の高齢者とともに継続的な健康活動に取り組む。

<地域づくり>

他世代や関係団体と連携し、安全・安心の住みよい地域づくりを目指す。

元気高齢者の知識・経験・活力を生かす場づくり・機会づくりを広げる。

「身体的、精神的、社会的に健康で豊かであること」を求める事がテーマです。

介護、介助無しに、自立して生活する術を提案しています。

シニア会活動を通して、私もウェルビーイングを自覚するようになりました。

次回から私なりのウェルビーイングについて、お伝えしていきます。

※（間違った認識、表現についてはご指摘下さい、また参考になる事例、文献などご紹介ください）

文責：高崎 公敏



食べもの 紀行

2024年酷暑が続く8月、2泊3日で豊川～鳥羽へ。もちろんプライベートで〈大学同級生8人で前期高齢者徘徊ツアー?!〉に参加する為に。

初日は三々五々JR豊川駅東口集合（豊橋市1名、千葉県1名、奈良県1名、大阪府1名、福岡県4名）、JR、名鉄や飛行機で。

先発隊は豊川稲荷（日本三大稲荷）をお参りする前に門前の松屋さんで元祖稲荷を食した。そもそも稲荷ずしの発祥の地については、諸説あり、江戸、名古屋、愛知県豊川市の豊川稲荷の門前町など（ネット情報）。

豊川稲荷門前の松屋さんのいなりは俵型で、具材がいろいろあり、12種類のいなりを堪能出来る。先発隊3人組は、時間も13時半を回っていたので夕食に備え、10種類のいなりを3人でシェア。



豊川稲荷総門前 松屋：創作稲荷で有名な店舗
セットで食したブルーベリーとクリームチーズは想像以上の味で楽しめました。

2日目は伊勢湾フェリーで鳥羽へ。人生初のお伊勢参り。参道前のお店で評判の赤福かき氷を食べるはずであったが、情報の行き違いで食べられず残念。お昼は、お参りの後、おはらい町で伊勢うどんを。博多のうどんと同じように柔らかく、あまりコシはない。出汁はシンプルで好き嫌いが多いと思う（あくまでも個人的な感想）。



伊勢神宮おかげ横丁 赤福茶屋
赤福がそのまま入ったかき氷、抹茶シロップと最適化されていました。
甘党は、追い赤福で楽しんで、至福のひとつでした。

太古の昔から参拝者の食事として提供されており、出来るだけコストを掛けなくて安く提供出来る様に出来たのではないのでしょうか。

いずれにせよ南国のような暑い中、一人の熱中症落伍者を出さなかったのは、良かった。

来年の大阪万博での再開を期して解散となった。





8月にご加入いただいた方

K.Tさん（福岡市博多区）

アイパックス日野出株式会社（福岡市早良区）

ありがとうございました。



個人の方の住所は、居住地又は勤務先の住所を表示しています。

7月入会のY.Kさんの住所に誤りがありましたのでお詫びするとともに訂正します。

福津市（誤）正しくは宗像市でした。



コーヒーブレイク

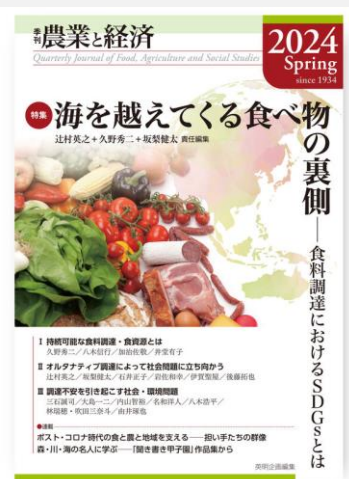
◆図書紹介：今月は定期購読の書籍と雑誌を紹介します。

月刊誌 [「食品と開発」発行元インフォーママーケットツジャパン（株）](#)



『これからの食品を考える情報誌』のコンセプトで、食品開発に関する学会発表論文や機能性表示食品の届出・受理の情報、国内文献情報、特許情報、注目の新商品情報など、より専門的なもの掲載している。また、月単位でフードロス削減への取り組み、プラントベースフード開発、食物繊維などをテーマとして特集している。当NPOは、今月から定期購読し、随時情報を提供するようにします。

季刊誌 [「農業と経済」発行元英明企画編集（株）](#)



農と食の視点から「命」を未来へつなぐオピニオン誌のコンセプトで、現在世界を冷静に見つめ、本来の農、食の在り方があるべき姿から提言を行う季刊誌である。昭和22年には既に発刊し、現在まで80年以上続いている。2024年春号では、『「海を越えてくる食べ物の裏側」—食料調達におけるSDGsとは』を特集している。内容は、世界の食料産地における社会問題とその対策、又倫理的調達を促し、食からSDGs達成に貢献するために、世界中の現状を伝えている。京都大学に關係する先生方の研究成果を踏まえた寄稿文が中心となり構成している。コーヒー、バナナ、カカオの産地で今何が起きているのか、知って倫理的買い物行動をする。食料に関わる人にぜひ読んでほしい季刊誌です。



編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました。先月の生き食べ未来通信は2号だったのに、2カ所『創刊号』という文字を入れてしまいました。会員の方から、ご指摘を受けるまで、気づかなかったのですが、よく見てくださったなと実は、うれしく思っていました。ありがとうございます。

これからも、「特定営利活動法人 生きものと食べものの未来」と生き食べ未来通信を、よろしくお願いいたします。

会員の方々からの、投稿をお待ちしております。

テーマは、環境・農・食、教育、福祉など何でも構いません。

企業のご紹介やイベントのおしらせ・よろずご相談などなど、どうぞお気軽に下記メールまでお知らせください。



info@npo-ikitabemirai.org

WEBサイト・FBページ・インスタ もあります。 マークをクリックして、覗いて見てくださいね！



(く)

令和6年9月 発行責任者 川上龍太郎